

浜岡原子力発電所 使用済燃料乾式貯蔵施設の建設計画の変更について

当社は、2008年12月に計画公表しました、浜岡原子力発電所 使用済燃料乾式貯蔵施設（以下、「乾式貯蔵施設」という。）につきまして準備を進めてまいりましたが、この度、基本設計が完了し建設計画の変更内容を決定しましたので、その内容についてお知らせいたします。

1 建設計画について

- 当社は、2008年12月に乾式貯蔵施設の建設計画について公表し、建設予定地の地質調査を実施するとともに、施設の設計を進めてまいりました。
- その後、2013年7月に施行された原子力規制委員会の新規規制基準を踏まえ、最新知見を反映して基準地震動 Ss1（1,200ガル）を策定いたしました。
- この基準地震動を考慮して耐震設計を見直した結果、乾式貯蔵施設の耐震性能を強化するため、貯蔵建屋において耐震壁を追加する等の必要があることから、使用済燃料の貯蔵面積が減少します。これにより、貯蔵容量は、当初計画の700トン・ウラン規模（燃料集合体で約4,000体）から400トン・ウラン規模（燃料集合体で約2,200体）になります。
- 使用開始の目標時期については、当初計画の2016年度から2年延期し、2018年度とします。
- 建設計画変更の概要は第1表のとおりです。

第1表 使用済燃料乾式貯蔵施設の建設計画変更の概要

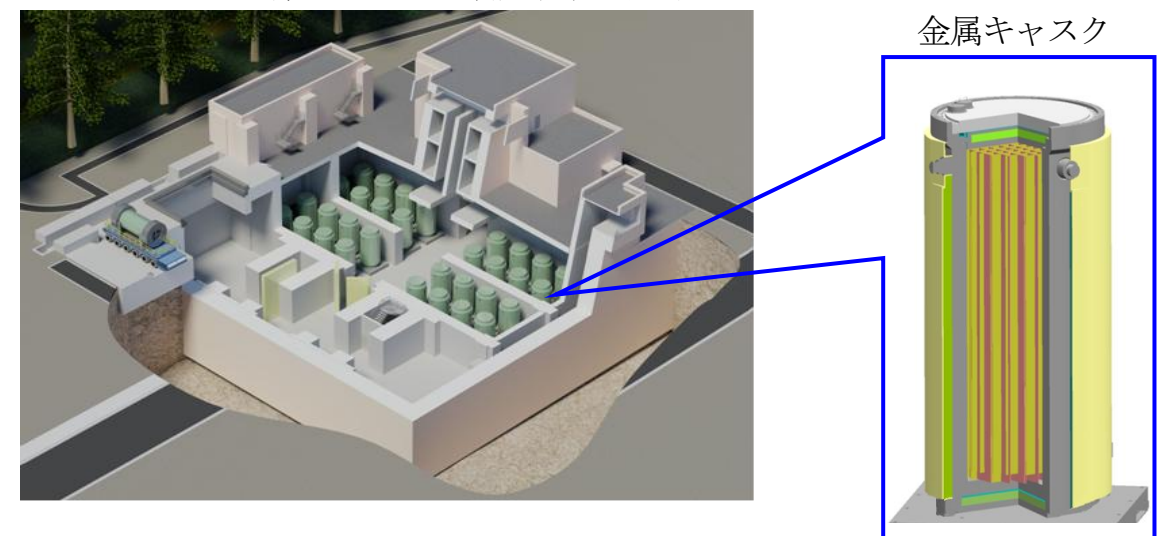
項目	当初計画	変更後の計画
貯蔵方式	・乾式貯蔵方式	・同 左
施設の建設	・貯蔵建屋：700トン・ウラン規模（燃料集合体で約4,000体）、1棟 ・建設工事期間：3年程度	・貯蔵建屋：400トン・ウラン規模（燃料集合体で約2,200体）、1棟 ・建設工事期間：同 左
建屋規模	・(東西)約60m×(南北)約50m×(地上高さ)約25m	・(東西)約51m×(南北)約54m×(地上高さ)約13m
主要な設備・機器	・金属キャスク ・貯蔵建屋 ・金属キャスク取扱設備 ・その他の付帯設備(放射線監視設備等)	・同 左
使用開始時期	・2016年度（目標）	・2018年度（目標）

(※)トン・ウラン：使用済燃料に含まれる金属ウラン量(トン)

2 乾式貯蔵施設の概要

- 乾式貯蔵施設は、使用済燃料を再処理施設に搬出するまでの間、放射線を遮へいする金属キャスクと呼ばれる容器に使用済燃料を入れ、空気の自然循環で冷やしながら貯蔵する施設です。
- 乾式貯蔵施設の詳細については、参考資料のとおりです。

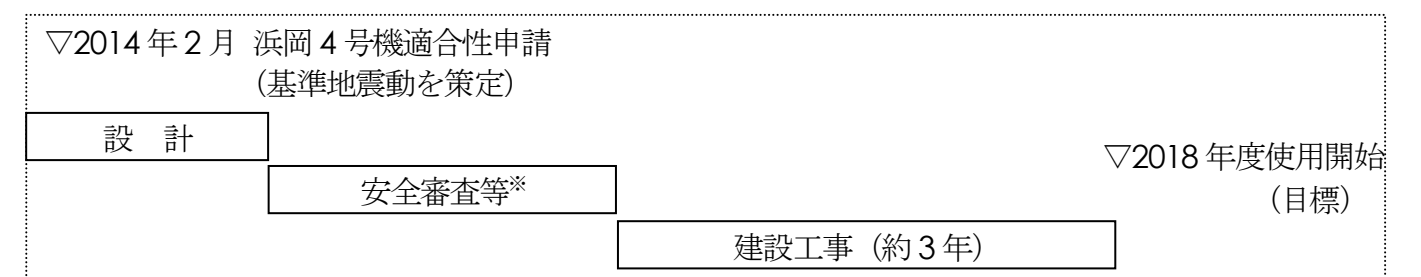
第1図 使用済燃料乾式貯蔵施設イメージ



3 今後の予定

- 今後、準備が整い次第、原子炉設置変更許可申請を行いたいと考えております。
- 乾式貯蔵施設の建設計画の変更内容について、地元の皆さまへ丁寧にご説明を行ってまいります。

第2図 使用済燃料乾式貯蔵施設の工程



(※)安全審査等：原子炉設置変更許可申請、核燃料輸送物設計承認申請、工事計画認可申請などに基づく国の安全審査

以上